

才女が泣く

森野 水琴

天上の元日。地上の言葉の乱れを何とかするために、トルストイの分身たちが天上の広場から地上に降りていく。大歓声で見送って、元日の集会は閉会になり、広場は静寂に包まれていた。

紫式部は広場に残り泣いている。「私も地上に降りられたらいいのに」と泣いている。

「あなたには引き続き天上の収容所で平和教育してもらいたいの、あなたの分身が地上に降りられるようお願いしてみましよう」とトルストイが語りかける。

地上で文化財を破壊した者は死後に収容され平和について教育を受ける。トルストイが講義するのだが、紫式部は日本を担当している。

源氏物語が千年の時を経て、なおも読まれていることに驚きながらも、地上の言葉の乱れには、紫式部も心を痛めていた。

「あなたの分身が地上に降りられるようになりました。日本で私の分身を案内してください」とトルストイから嬉しい報告があった。

「ありがとうございます。地上でも力を合わせましょう」と言って紫式部が泣く。

才女が 静かに泣く

その涙が ひとしずつ

むらさきの あめがふる